

ネイティブハウス チェックリスト

ネイティブハウス事前チェック申し込み時にこのチェックリストを併せてご提出してください。

会社名				担当者	
物件名	契約予定日		着工予定日	連絡先	

	項目	チェック欄	確認できる図書名	備考
施策に関する共通ルール	いずれかに適合している	STEP1(長期優良住宅仕様)		マニュアル5.レベルアップ参照
		STEP2(性能評価仕様)		

	項目	チェック欄	確認できる図書名	備考
構造計画に関する共通ルール(原則)	上下階の耐力壁線区画が一致している。			構造計算でクリアできていれば、ルールの適用から外れても構いません。
	耐力壁相互間の距離は12m以下である。			
	耐力壁線で囲まれる面積は40㎡以下である。			
	耐力壁線区画の形状比は1:3以内である。			
	耐力壁線の交差部には1P以上の耐力壁がある。			
	耐力壁線上の開口率は3/4以上である。			
	耐力壁線上の最大開口幅は4m以下である。			
	上下階の柱直下率は50%を超えている。 高床住宅の1階RC部分にスラブが設置されている。			
構造計画に関する共通ルール(必須)	耐震等級(倒壊・損壊防止)2以上			チェック欄に 等級を記入 してください
	耐風等級1以上			
	耐積雪等級1以上			
構造計算に関する共通ルール	許容応力度計算により基礎の設計を行っている。			
	積雪荷重による柱軸力により土台のめり込み検討を行っている。			
木造躯体における共通ルール(原則)	柱の小径は120*120以上である。			構造計算でクリアできていれば、ルールの適用から外れても構いません。
	耐力壁の同一階壁率比は0.5以上である。			
	耐力壁の上下階の壁率比は0.6以上である。			
	引っ張り、圧縮筋かいの存在量の差は5%以内である。			
	筋かいの種類は令46条に準じている。 面材耐力壁の仕様は告示1100号に準じている。			
木造躯体における共通ルール(必須)	アンカーボルトの埋め込み長さはM12の場合、250mm以上とし、M16の場合は柱脚の短期許容耐力が25KN以下で360mm、33.5KN以下で510mmである。			
	アンカーボルトは、継手、仕口、耐力壁端部にあり、位置は芯から2400/柱柱脚の短期許容耐力の数値かつ300mm以内になっている。			
	アンカーボルトは@2700以内となっている。(在来工法)			
	アンカーボルトの設置には治具を用いる。			
	接合部の補強金物には、ZマークまたはCマーク表示金物を仕様する。			

チェック欄には か×を記入してください。

	項目	チェック欄	確認できる図書名	備考
地盤または杭の許容支持力における共通ルール(必須)	地盤調査はSWS試験とし、建物の四隅と中心付近の計5か所を調査する。			地盤調査報告書を事務局までご提出ください
	SWS試験結果により、建物重量を考慮した圧密沈下検討及び傾き検討、傾斜角検討を行い不同沈下が発生しないことを確認している。			
	柱状改良において、上層建物重量と柱状改良体の支持力と安全性の検討を行っている。			

	項目	チェック欄	確認できる図書名	備考
温熱環境計画に関する共通ルール	省エネルギー対策等級4			
	いずれかで検討している	性能規定 仕様規定		
省エネルギー対策計算に関する共通ルール(推奨)	断熱ガラスは北面と南面に使用している。			
	遮熱ガラスは東面と西面に使用している。			
温熱環境の施工に関する共通ルール(原則)	断熱材の補完を行っていない。			性能規定による計算で基準値をクリアしていれば、適用から外れても構いません
	開口部における面積緩和規定を使用していない。			
温熱環境の施工に関する共通ルール(必須)	防湿シートの継手は下地のあるところに設ける。			
	耐力壁に合板を使用し、それを断熱材外側に取り付ける時、繊維系断熱材を使用する場合は断熱層内側に防湿層を設ける。			
	屋根面において、断熱材を垂木間施工する場合は、断熱層外側に30mm以上の通気層を設ける。			
	断熱層部分に設置する点検口は断熱、気密タイプとしている。			
	断熱層部分にダウンライトを設置する場合は、S型埋め込み品を採用している。			
	繊維系の断熱材を用いる場合は、壁からずれ落ちないように適切な処置を講じている。			
	設備配管、電気配線等の断熱層貫通部には、適切な防湿処置と断熱補修を行う。			
	充填断熱とする場合は、補強金物等の貫通部には、発泡ウレタンなどの熱橋処理を行う。			
設備に関する共通ルール(必須)	屋根、天井、壁、床の取り合い部には冷気が室内に侵入しない様に通気止めを設ける。			
	床下断熱であっても、1階にユニットバスを設置する区画は断熱、冷気処理の観点からその周辺を基礎断熱とする。			
設備に関する共通ルール(必須)	開放型ストーブを使用していない。			左記以外の仕様・性能となる場合は、事務局に要相談
	熱の損失を避けるため、換気回数を0.5回/h以上0.6回/h以下としている。			

チェック欄には か×を記入してください。

	項目	チェック欄	確認できる図書名	備考
その他の 共通ル ール(必須)	火災警報器をすべての寝室、階段、台所に設置している。			
	通気構造としている。			
	床下防湿対策を60mm以上の防湿コンクリートと厚さ0.1mm以上の防湿フィルムとしている。			
	内装仕上げ、下地材ともにF としている。			
	上記以外の仕様が、長期優良住宅(国交省告示第209号)及び木造住宅工事仕様書(全国版)に準じている。			

	項目	チェック欄	確認できる図書名	備考
主要構造 材におけ る共通 ルール	主要構造材の過半に越後杉ブランド材を使用している。			
	主要構造材の過半に合法木材を使用している。			
維持管理 に関する 共通ル ール	30年までの維持保全計画書と災害時における臨時点検計画が備わっている。			
	第3者機関の住宅履歴蓄積サービスに登録している。			いずれかを選択
	当協議会の住宅履歴蓄積サービスに登録する。			

チェック欄には か×を記入してください。

事務局承認欄

問い合わせ先
〒951-8061
新潟市中央区西堀通三番町799番地
西堀カメラ902号室
TEL; 025-226-8118
FAX; 025-226-8117
mail: suzuki@ms-structure.com
新潟地域型住宅協議会事務局
(株)M's構造設計内)
鈴木淳宛

このチェックリストとチェック内容が分かる図面を添付して、事務局宛てにメール等でご提出ください